

老人福祉～藍寿苑の現状について～

余裕のある配置、責任ある介護を行っている

問 入所者の大多数の方は明治・大正・昭和の激動期を生きてこられ、今日の日本の礎を築かれた皆様、安心して日々を送られるように最大の配慮をすべきと考えますが、ゆとりのある施設運営となっていますか。また、本年四月よりの給食・民間委託の現状、食の安全、地産地消の取り組みについても尋ねます。

答 職員一丸となって、相互協力しながら介護に携わっている。研修も行っており、介助員は特に一名増やしている。今後は更に余裕を持って、安心して過ごしていただけるよう配慮したい。

給食は、現在は概ね順調に調理が行われている。現在、平均で全体の約十三％が県内産であるが、今後、更に町内産を進めていきたい。



藍寿苑

登下校の安全

～下校時の被害防止について～
地域ぐるみで安全対策に取り組むことが不可欠

問 本町での、夏休み前の下校中、下校後の連れ去り未遂事件について、全国各地での事件は本町においても起こりうることを認識、今まで以上に安全な教育環境づくりが大切と考えます。教育委員会の見解、今後の取り組みについて尋ねます。

答 子供達への安全指導の徹底、メール発信や文書配布等により保護者への啓発強化を行ったが、板野署をはじめ、社協や地区協の皆さん、防犯推進協議会等に

対しても、なお一層の御協力をお願い申し上げた。また、下校時間帯に合わせたバイクによる見回り監視員のの新設も計画している。



西岡 恵子 議員

その他の質問

- 不登校・登校拒否について
- 公有地及び私有地の雑草の除去について
- 藍住町男女共同参画基本計画策定について

防災

～自主防災組織の支援・集中豪雨対策について～

より多くの地域で自主防災組織が結成されるよう、支援に努めたい

問 二〇〇七年 九月より自主防災組織の支援強化で補助率を四分の三に引き上げ、その充実を図っておりますが、現在の登録件数について、又、組織率アップに向けて、必要最低限度の資器材の現物支給への取り組みは如何か。最近全国各地で起こっている集中豪雨、本町での水害対策に

答 現在の自主防災組織数は九十四である。資器材の現物支給は、今後の検討課題としたい。

昨年六月に洪水ハザードマップを作成、全戸配布したが、避難すべき区域や判断基準について、本年度、避難勧告等の判断・伝達マニュアルを策定した。今後、避難勧告発令・伝達や要援護者の避難支援対策の実効性を高めるため、必要な対策を講じたい。